
魔獣使いの勇者狩り

朝霧

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔獣使いの勇者狩り

【Nコード】

N0156BA

【作者名】

朝霧

【あらすじ】

ある日、俺は突然いわれもなくいきなり死んだ。そこへ神様が現れて助けてくれるのかと思ったら・・・さつさと消えろって・・・え！？神じゃなくて悪魔に助けられた俺は悪魔との契約で異世界行つて勇者倒して来いって・・・俺どーなるのさ？

第1話 その日俺は死んだ？

前略

なんでか知らないけど俺は死にました

草々

「・・・あれ？」

我ながら突拍子もなさ過ぎて自分でも驚いてしまっが・・・なぜか理解できる。死んだ・・・間違いなく死んだ・・・俺が・・・でもどうして？

俺はほんの数秒前までただ普通に道を歩いていただけだった。別に大型トラックに轢かれたでもなければ、死ぬような病気を患っていてそれが発病したわけでもない。どこぞの死のノートに名前を書かれて心臓まひ・・・とかでもない。

まるで下手なマジシャンの消失マジックのようにワンツースリーで俺の命が消失した。消えたものは戻ってくることは・・・ない。ただ何なんぞ俺は自分が死んだって解るんだ？ってかここどこだ！？周りは・・・何も見えないけど、自分の体ははつきりと見える・・・暗いわけじゃないけど明るくもない・・・何これ？

『あーあ。靈魂がまだこんなとこに居るよ』

混乱している俺の目の前が突如眩く光を放ったかと思えばそこから一人の人・・・少年？つが現れた。白い布一枚で体を覆っているだけのその小さな体軀がやけに神々しく見える・・・

『神々しいって？当たり前前だろ？僕は神なんだからさ』

神と名乗った少年はさも当たり前のように俺の心の中を読んで鼻で笑って答えた。理屈ではなく本能的な何かで理解した・・・この子供は本当に神様だと。

ここがどこだかわからないにせよ今日の前に居るのが神様ならもしかして

『はあ？なんか勘違いしてるみたいだから、この神がてーねーに教えてやるけどな。僕はお前を助けたりなんかしないよ』

「・・・え？」

僅かに芽生えた希望が一瞬にして潰えた。神を名乗った少年は俺を助けるわけじゃないと言った・・・じゃあなんのために？

『できそこないがっ！神と直接話そうなんざ図が高いのも程があるだよ！おまえは黙ってさっさと虚無の中に消えてくれ』

「あっ・・・あ・・・あ・・・」

そんな突き放すような一言を合図にするかのように俺の身体が少しずつ消え始めて行く。痛みも苦しみもない・・・何も感じない・・・だが・・・だからこそそれが恐怖となって湧きあがる。叫びたいのに声がうまく出ない。そんな俺を見て何か満足したかのような神を名乗った少年は『これで問題解決。さっ！愛しい愛しい僕の世界が救いを待ってるっ』だけ言い残してどこかへ消えてしまった。

湧きあがる恐怖。それに比例してひろがっていく感覚・・・いや感覚を失っているという方が正しいだろう。

「俺はこのまま消えるのか？・・・このまま・・・このまま？・・・なんで・・・消えなくちゃいけないんだ？俺が何をしたらっていうんだ！？」

最後の力を振り絞って吐き出された叫びはどこに届くわけもなく、誰に届くわけでもなく・・・ただ虚ろの向こうへと溶けて消えた。

見ることも聞くことも・・・声を出すこともできず、最後に残ったのはループする絶望だけだった。

俺は死んだ。

俺は死んで、消える。

俺は神に忌み嫌われ、神に殺され・・・消される。

なぜ？なぜ？なぜ？・・・なぜ！？

その日俺は死んだ

「・・・おろ？なんか面白いものみつけたと！」

第1話 その日俺は死んだ ? (後書き)

ここまで読んでいただきありがとうございました。

誤字・脱字・感想・ご指摘など、何かありましたら感想フォーム等にてよろしくお願いします。

神様の手違いで〜とか、予想外の出来事で〜とか、なんだかんだで味方してる神様。

でもそんなのより神様敵の方がいいんじゃない？ってすごい中二チツクなのは気にしちやいけません！

第2話 その日俺は死んだ？

「おい。いい加減起きろー」

「……………」

誰かに起こされてる気がする……

「おい。いつまで寝てんだー？」

「……………」

ついでに頭をぺち叩かれてる気もする……

「だーったく……いい加減起きろーって言ってんだろっつがー！」
「のづえあー？」

気のせいじゃなかったようだ……今、俺はどこぞの誰かに叩き起こされたようだ。寝ボケ眼で俺を叩き起こした奴を見た。その印象は取ってもシンプルだった。

すっげーちやらそんな奴……

「あつ！いま俺様の事ちやらそーとかそーゆーこと思ったろ？いや思った。絶対に！思ってた！」

ちやらそんな奴がズビィ！っと指さして叫んでる。思ってたよ……確かに思っていました。見たまんまじゃん。無駄に伸ばしまくった黒い髪とか、露出多すぎてもはや半裸気味な服とか、背中の子な羽とか、ちやらいつて言うかももう変質者でもいい気が……あれ？なんか今、聞き捨て……ここは見捨ててか？……ならないモノが含まれてたよっな……

「まっ！どーでもいつか。あんまし時間ないし……ってー事でだ！俺、悪魔な。よろしく」

「は・・・はあ・・・はあ!？」

何こいつ、自分の事普通に悪魔とか名乗っちゃってるよ!? ンでもって解ったよ自分がスルーしてたの! その羽何!?

「おいおいおいおい。こんぐらいで驚くことかよ? もう神にだって会ってんだからこれくらい受け入れる余裕ってもん持てよ」

「・・・神?・・・あっ」

思い出した。神とか乗ったあのガキに俺はなんだか知らないうちに殺されて何も分らないうちに消されようとしてたんだ・・・っ! 思い出したらその理不尽さにはらわたが煮えくりかえりそうになるが・・・そういえば、なんで俺・・・まだ生きてるんだ?・・・っ。て死んでるからなんか変な気分だが。

「ん〜どーやら自分の置かれてる状況思い出したっばいな。んじやとりあえず・・・俺と取り引きしねーか?」

「取り・・・引き・・・?」

唐突に持ちかけられた取り引き・・・それを聞いただけで少しそいつから距離を置く。そりゃそうだろう悪魔との取り引きとか大抵ろくなもんじやない。普通は魂を〜とか良く聞くが・・・まあろくなもんじやないのは確かだろう。

「うわー露骨に引きやがったよこいつ・・・まっ! 安心しろよ取り引きつつたつて、命をどうこうしようってわけじゃない。そもそもおめーとつくに死んじまってるしな。っーか言っとか俺様と取引しねーとおめー消えるぞ? まじで」

悪魔を名乗ったそいつはケタケタと軽く笑いながら俺を未だに指さす。いつまでそのまま居るつもりかというツツコミはさておき・・・とりあえずすぐさまどうこうってことはなさそうだが・・・まあ話を聞くだけ聞いてみるのもありか? 実際こいつの言っとおり何もしなければ消える・・・それを全身で感じている。

消える・・・消える？消えるのは・・・怖い。

「さーてと！では俺様との取り引きの内容だが・・・まあ、おめーをここから出してついでに生き返らせてやる・・・まあ、元の場所につてのは流石に無理だけだな。おめー殺した神のやるーに一発でばれちまうからな・・・プラス！おめーに俺様の持つてる力をちよーっとばかしやる。これがまず俺様の出すものだ」

「そ・・・そう・・・」

なんていうか・・・不安だ。死んでしまった俺を生き返らせてくれる・・・それどころか何かしら力もくれるとかずいぶん待遇がいいが・・・それは同時に自分に対する条件の厳しさを暗に示されているようで・・・自然と身構えてしまう。

「そー身構えんなって。俺様からの条件はひとつ！お前、俺の手下になってちよつと神に喧嘩売って来い」

「はっ？」

「だーかーらー！ちよつくら生き返って神どもの世界を色々引つ掻き回せって言っただよ。それくらいわかれよ」

「はあああああ！？」

むちゃくちゃだ・・・むちゃくちゃすぎる。何言ってるんだこいつ！？

「つるせーなあ。大したことじゃねえつての！お前がやることは簡単。お前が居た世界とは違う世界・・・要は異世界つてやつだな。そこに行つて神の加護を受けてるやつ・・・確か勇者とか呼ばれてたな。そいつをぶつ倒せばOKってことだよ」

「何それ・・・ってか何でわざわざ俺に・・・？」

我ながらもつともな意見を言っただつもりだ・・・が、まあ言った後にこれが割と見当はずれな意見な気もしてきた。それもそのはずそ

もそも神に喧嘩を売るとか普通しない。なんか今の俺みたいに簡単に消されそうだし・・・でも、勇者ってそんなファンタジーな・・・

「おいおい、自分で言っておきながらちやっかり自分で納得した風な顔すんなよ・・・まっ、大体思ってるとおりだ。俺様が直接喧嘩を売るとかそんな面倒なことごめんさ！だけどなーんにもしないのはつまんねーんだよな！だから俺様の代わりに異世界で暴れて引つ掻き回して神に喧嘩を売る・・・くーっ！面白い見世物になるぜーこりゃ！」

・・・つまりそういうことだ。この悪魔は俺を使って俺があぐ姿を見て笑い転げたい・・・そういうことらしい。まさにサーカスで玉乗りしてる道化師もいいところだ。

「・・・解った。今の俺には道化の様にお前の見世物になるつきやないみたいだし」

「よっしゃー契約成立と・・・しっかし、道化ねえ〜大した皮肉だな。よーっし！たっただ今からお前の名前は「クラウン」フリーリス」
。神に喧嘩を売る馬鹿な道化師の誕生！」

一応俺にも名前があるだがそれを言おうとしたら「お前を殺した神が作った世界の名前なんていらんいらん」って言われたが・・・クラウンもフリーリスもその枠組みに入るよな？なんて思ったがそこにツッコミを入れるのは野暮というものなだろう。クラウン・・・フリーリスねえ

「あーではでは〜！道化のめくるめく異世界大冒険の始まり始まり〜頑張れよ〜」

「ちよっ！？まだどんな力もらうか聞」
自分の新しい名前に色々浸っているとあっさり異世界に飛ばされてしまったようだ。

「ねからぶじするよ・・・俺

第2話 その日俺は死んだ ? (後書き)

ここまで読んでいただきありがとうございます。

誤字・脱字・感想・ご指摘など、何かありましたら感想フォーム等にてよろしく願いします。

何の能力をもらったかもわからずに送り出された主人公クラウド。つとはいつてもそもそもタイトルでネタばれが起きていますが気にしちやいけません！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0156ba/>

魔獣使いの勇者狩り

2012年1月2日00時49分発行